

5.6 水との関わり

(1) 市民や市民団体等による環境保全活動

市内のそれぞれの川において、市民や市民団体の皆さんにより、河川敷や堤防の清掃、草刈等の環境保全活動が実施されています。岡崎の水環境を良くしていくためには、水と市民との関わりを深め、市民の力による活動の展開が必要不可欠となります。



図 5-24 「川と海のクリーン大作戦」の様子



図 5-25 「菅生川を美しくする会」の活動の様子

(2)川に関する祭り・イベント

水辺を活用した様々なイベント等が行われています。水環境に対する興味を高め、水との関わりを深めるために既存の行事を継続するとともに、水環境資源を活用した新たな行事を検討していく必要があります。

表 5-9 川に関する祭り・イベント

イベントの内容	写真・開催の様子
<p>伝統行事「アースワーク展」</p> <p>[時期] 5月</p> <p>[場所] 矢作橋下</p> <p>[内容] 河原の砂で造形作品を作るイベントで昭和 44 年 (1969 年) から続いています。シャベル等で 5 メートル四方の作品製作を行い、矢作中学校の生徒等が参加し、2 時間半の作業でほとんどの作品を完成させました。(東海新聞、H17.5.3 より)</p>	 <p>写真は矢作中学校ホームページから転載</p>
<p>広田川「灯籠流し」</p> <p>[時期] 8月</p> <p>[場所] 広田川</p> <p>[内容] 「伝えたい親子の思い-840 の親子の灯りが広田川に流れる-」と題し、親子の願いを紙コップに書いて灯籠を六ツ美南部小学校の各クラスごとに作りました。その灯籠をいかだに乗せ 14:00 と 18:00 に広田川に流しました。特に 18:00 に流したクラスごとのいかだにはローソクの淡い光が幻想的に水面に映り、一層の輝きを増していました。平成 16 年度で 2 回目の行事となりますが、親子 500 人が短い夏の終わりを楽しみました。</p>	 <p>写真は六ツ美南部小学校ホームページから転載</p>

表 5-10 川に関する祭り・イベント

イベントの内容	写真・開催の様子
<p>伊賀川まつり</p> <p>[時期] 7月</p> <p>[場所] 伊賀川</p> <p>[内容] 市中心部を流れる伊賀川で、子どもたちが自然や美しい川の流に親しむことを目的に、「伊賀川を美しくする会」が主催しています。平成17年度で32回目となり、コイなど川魚の稚魚の放流、魚つかみが行われました。</p>	
<p>桜まつり</p> <p>[時期] 4月</p> <p>[場所] 岡崎公園・伊賀川堤</p> <p>[内容] 約1,700本のソメイヨシノが岡崎城天守閣を中心に咲きほこり、その美しさは名画を見ているようである。夜桜風景は東海随一の名所といわれ、河川敷にはたくさんの露店もでており夜な夜な春の宴が繰り広げられる。伊賀川ではお花見が楽しめるよう稲熊町に人道橋「さくら小橋」が架けられシンボルゾーンとなっている。期間中には夜間照明も設置し、メインイベントの家康行列や乙川を利用した遊覧船の運航も行っている。</p>	 
<p>こどもまつり</p> <p>[時期] 5月上旬</p> <p>[場所] 乙川殿橋下流河川敷</p> <p>[内容] 子ども達に昔ながらの遊びを伝えたいという願いから始まり、平成17年度で32回目となります。5月の連休の1日を活用して行い、市内の子ども達をはじめ周辺の市町村の子ども達も集まる楽しい、大きなお祭りに発展しています。</p>	

表 5-11 川に関する祭り・イベント

イベントの内容	写真・開催の様子
<p>岡崎観光夏まつり(花火大会)</p> <p>[時期] 8月第1土曜日</p> <p>[場所] 乙川・矢作川河畔</p> <p>[内容] 文化文政の昔から情緒豊かな銚船を浮かべた花火まつりとして広く知られた菅生まつりが、岡崎観光夏まつりとあいまって今日では、4号・5号・8号・10号玉、乱玉、大のし、各種スターマイン、地割等三河花火の粋を集めた花火が夏の夜空を焦がします。また、川には全国的にも珍しい金魚花火が打ち込まれ、河岸では日本一の規模といわれる仕掛花火も行なわれるなど、息をつく間もなく花火の競演が繰り広げられます。</p>	
<p>秋の市民まつり</p> <p>[時期] 11月上旬</p> <p>[場所] 乙川殿橋下流河川敷</p> <p>[内容] 郷土”おかざき”の産業と文化の振興を目的とし、市民が参加できるイベントとして開催されています。岡崎の優良物産品の展示即売を行なう”商工フェア”、生鮮野菜、農林産物の展示即売を行なう”農業祭”、環境に対する意識の向上とPRを目的とした”環境展”、防火防災の啓蒙活動を行なう”消防ひろば”、また、特設ステージにおいては、子ども向けキャラクターショー、歌謡ショー、遊覧船の運航、市民ステージが行なわれます。</p>	

(3)水に関する史跡・観光

「川に関する祭り・イベント」と同様、様々な水に関する史跡や観光資源があります。水環境に対する興味を高め、水との関わりを深めるために史跡や既存の観光資源を保存するとともに、水環境資源を活用した新たな観光資源の開発を検討していくことが大切です。

表 5-12 水に関する史跡・観光

史跡・観光資源の内容	写真・開催の様子
<p>岡崎城</p> <p>三河の守護代西郷頼頼(つぎより)が康正元年(1455)に築城。その後松平氏の居城となり、天文11年(1542)に松平竹千代(後の徳川家康)が城内で生まれました。</p> <p>明治6年～7年にかけて取り壊しとなりましたが、昭和34年に三層五重の天守閣と井戸櫓、附櫓が86年ぶりに復元されました。</p>	
<p>東公園</p> <p>この公園の南側一帯の洪積台地は、かつて根石ヶ原と呼ばれた水田地帯でありました。東公園にある大小の池は、その水田に水を引くために造られたものであります。池を囲む丘陵を遊歩道が巡り、桜、菖蒲、紅葉などが訪れる人の目を四季折々に楽しませてくれます。</p> <p>園内には、動物舎、地理学者志賀重昂(しげたか)の墓碑、茶室の等澍庵(とうじゅあん)、南北亭、三河男児の碑などがあり、自然と親しみながら偉人の足跡を偲ぶことができます。</p>	
<p>大門公園</p> <p>この公園は、市の中心部より北西へおよそ5km行った愛知環状線北側の大門3丁目に位置し、住宅と農地の混在する新市街地の中にあり、矢作川左岸堤に沿った自然林と池を生かし緑と自然に親しめる公園であります。また、夏休み期間中には、キャンプ場の利用もたいへん多く、子ども達が自由に遊べる公園整備がなされています。</p>	

表 5-13 水に関する史跡・観光

史跡・観光資源の内容	写真・開催の様子
<p>悠紀斎田お田植えまつり</p> <p>大嘗祭(だいじょうさい)は、天皇即位後初めてとれた新穀で神饌神酒をつくり、これを天照大神に捧げ、天皇自らも召し上がられるという、皇室の祭典の中でも最も重要な儀式の一つであります。この大祭に必要な新米を作る田を「斎田」といいます。</p> <p>大正3年、斎田を選定する儀式の時に、京都を中心とした東日本を悠紀(ゆき)の地方、西日本を主基(すき)の地方と呼び定め、悠紀の地方には三河の六ツ美村が、主基の地方には香川県の山田村が選ばれました。</p> <p>例年6月には、昔ながらの装束農具を使い、当時さながらのお田植えまつりが行なわれます。</p> <p>また、この行事に使用された衣類、器具、唄、踊り、通用門などの資料は下青野町の斎田記念館にそのまま民俗資料として保存されています。</p>	
<p>矢作橋と日吉丸</p> <p>矢作橋の西詰めに、高さ4mの石彫「出合之像」があります。これは諸国を放浪する日吉丸(後の豊臣秀吉)が矢作橋で寝ていたところを野武士の頭目、蜂須賀小六(正勝)に出会い、その出会いがやがて秀吉の出世のきっかけとなる墨俣一夜城の成功に結びつき、野武士の頭目は秀吉の家臣となってついには大名にも成り上がっていったという伝説を再現したものです。(現状は、橋架け替えのため、長期不在になっている。)</p>	
<p>二畳ヶ滝と発電所</p> <p>日影町地内にある二畳ヶ滝は、高さ30m幅7mにわたり、激流が畳状の岩盤を二条に別れて流れ落ちることから、この名があります。近くには、岡崎の街に初めて電気の灯をともした岩津水力発電所が、現在も運転を続けています。</p>	

表 5-14 水に関する史跡・観光

史跡・観光資源の内容	写真・開催の様子
<p>駒ヶ滝と扇子山</p> <p>山綱町地内にある扇子山は、大自然に恵まれ、三河湾を一望でき、若き家康が三河平定の際、名付けたといわれます。山の中腹には、芦毛の駒の伝説を秘める落差8mほどの駒ヶ滝があります。</p>	
<p>乙川龍宮溪谷</p> <p>岡町地内にある乙川龍宮溪谷は、四季折々に表情豊かな風景を作り出し、岡崎随一の溪谷美を誇ります。</p> <p>「雄能頭」、「雌能頭」と呼ばれる淵をなした所は、巨岩奇石が川面に迫り、昼なお、薄暗くいくつかの伝説や信仰を生んでいます。</p>	
<p>くらがり溪谷</p> <p>くらがり溪谷は、市街地から東へ約 26km、本宮山県立自然公園の南西部の標高 250m～600m の間に位置する景勝地です。</p> <p>市内の中心を流れる乙川の支流、男川の源をなすこの溪谷は、広葉樹と針葉樹からなる優れた天然林となり、その間をぬって流れる清流は、大小さまざまな瀬と淵と滝をつくり、その変化に富む岩と美しい森林が見事に調和し、自然美を作り出します。</p>	
<p>日近の里こいのぼり揚げ</p> <p>額田地区の桜形町地内において、日近城址近くの乙川沿いで地元の方々の協力のもと、日近の里こいのぼり揚げが行われます。</p> <p>乙川を横断した長さ150mのV字形に渡されたロープ2本に、200匹のこいのぼりが取り付けられ、日近の里を優雅に泳いでいます。</p> <p>遠くから見学に訪れる人もあり、春の風物詩となっています。</p>	

(4)小中学校と水辺環境

市内の小中学校の周辺には川・ため池・水田等の水環境が豊かであり、水辺との繋がりも身近なものとなっています。また、ホタルの保護や飼育等を通じて水環境の改善に取り組んでいる学校もあります。

学校の近くにある水環境を積極的に環境学習等に活用し、子どもだけでなく地域の大人も一緒になって水環境に対する理解や知識を深めていく取り組みが大切です。

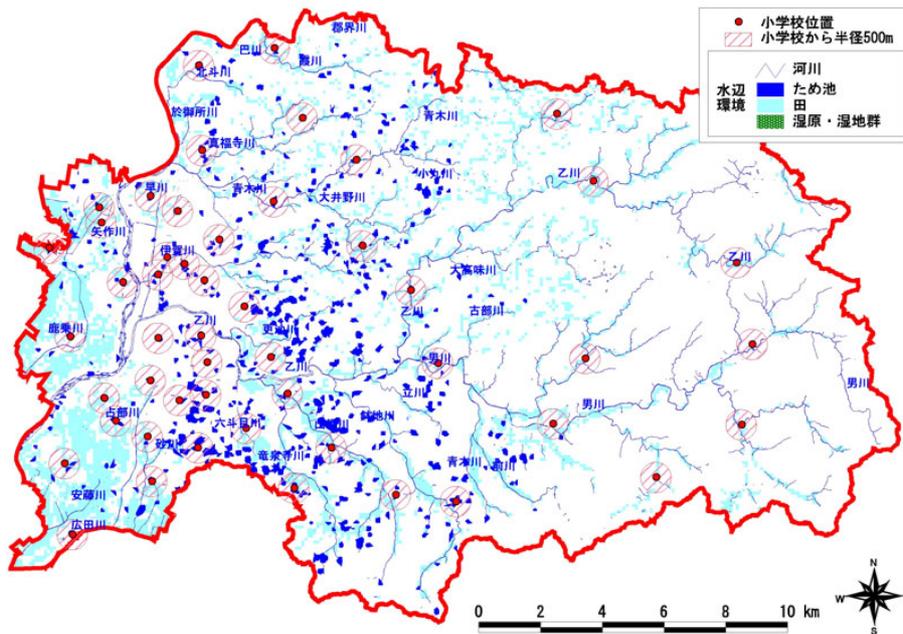


図 5-26 小学校と水辺環境の位置関係

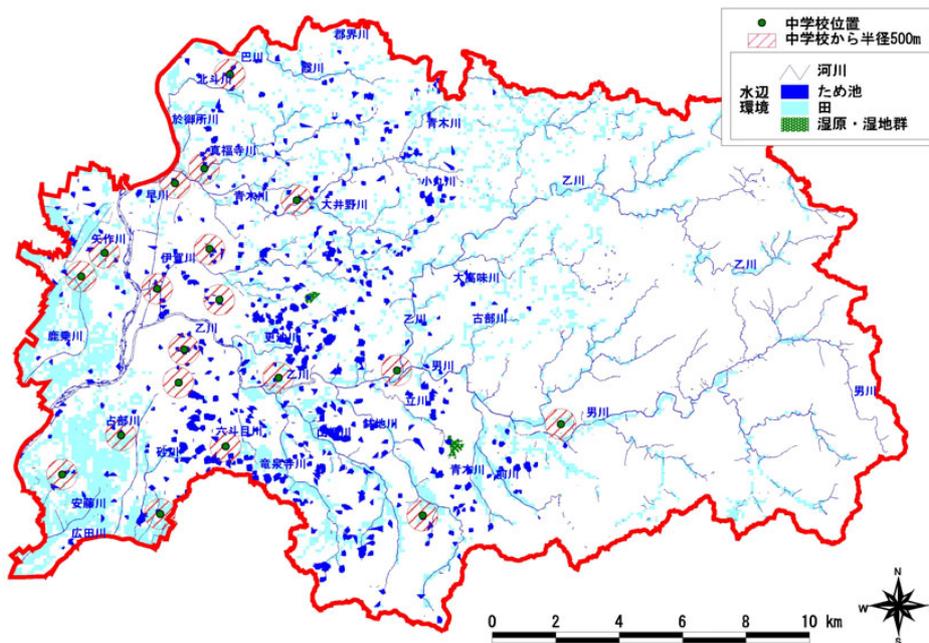


図 5-27 中学校と水辺環境の位置関係

鳥川小学校の事例(ホタルの保護活動)

鳥川学区は昔からゲンジボタルの飛翔地として知られており、鳥川小学校はその保護を環境教育の中心に据え、様々な取り組みを行っています。最近では、子どもたちの活動に感化され、地域住民も学校と一体となった活動を繰り広げています。川の環境をよくしようと川辺の雑木伐採や草刈を行うだけでなく、川の源である「山」の環境にも目を向けた取り組みをしています。また、鳥川小学校とホタル保存会の活動を描いた「ホタルの光る川(副題:ホタルを守る愛知県・鳥川小学校の一年生)」という絵本が出版されています。



切株にホタルの絵を描く



川底の砂を使ってホタルを育む土手の活性化を図る
写真は鳥川小学校ホームページから転載

河合中学校の事例(ホタルの飼育活動)

河合中学校では、ゲンジボタルの幼虫の飼育活動を継続し、昭和43年以降毎年数千匹の幼虫を学区の川(男川、乙川)に放流しています。また、ホタル環境保全を啓発する看板立てなどの保護活動も行っています。幼虫の飼育を行っている自然科学部では、この他に幼虫の放流式の準備や河川の水質調査、カワニナ(幼虫のえさとなる)の飼育を行っています。



ホタルの幼虫の飼育施設
写真は河合中学校ホームページから転載

(5) 「水とみどりの森の駅整備事業」との関連

本市における「水資源」を守り、「豊かな自然環境」を将来にわたり継承するため、自然環境を保全育成し活用することを目的として「水とみどりの森の駅整備事業」が実施されています。自然に触れ、自然の中で体感することにより、自然環境継承と保全育成が期待できます。

1. 森の駅事業の目的と役割

「森の駅」事業の目的

岡崎市は旧額田町との合併により、水道水の 50%を占める乙川の水源地と豊かな自然を市域にもつこととなった。水は、私たち人類を始めとした生きものの命の源であり、その水は緑豊かな自然環境の中で育まれている。また、「自然環境」は、水源涵養のほか地球環境保全機能、防災機能、生物多様性維持、レクリエーション機能、農林漁業等の生産資源として多様な役割を担っている。

「森の駅」事業は、岡崎市における「水資源」と「豊かな自然環境」を将来にわたり継承するため、保全育成し活用していることを大きな目的とする。

「森の駅」事業の役割

上記の目的のために「森の駅」事業は以下の2点を支援、促進する。

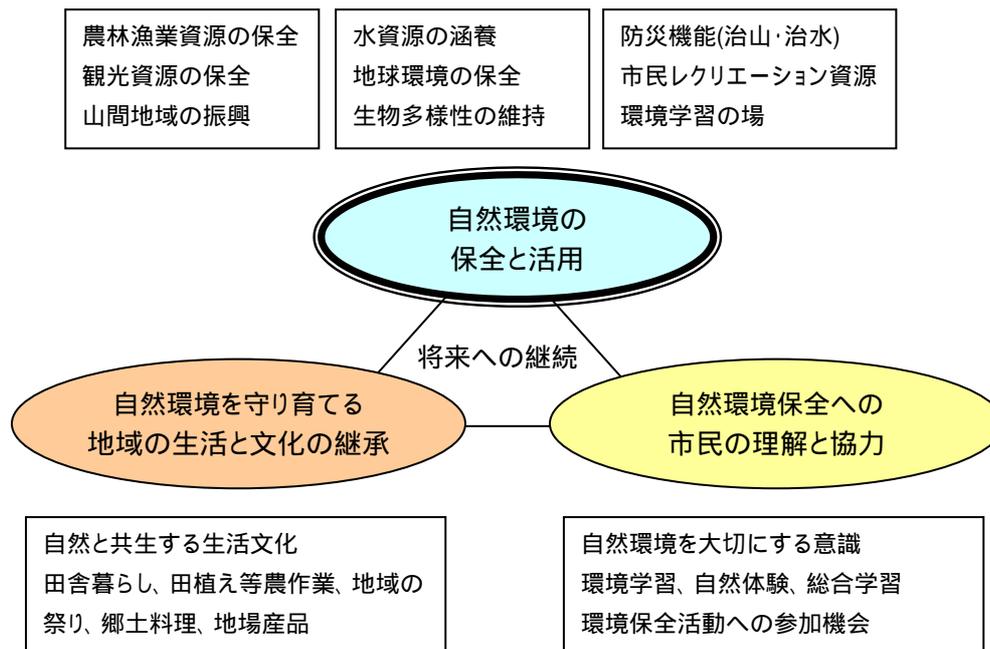
「自然環境」の多様な役割を学び・体験する機会を提供し、市民の自然環境への理解と保全育成活動への協力を得る。

・環境学習(遊び・親しみ・気づき・学び・行動) ・自然体験の場及び機会の創出 ・活動の場の提供

「自然環境」を守り育て自然と共生してきた「地域の生活文化」の継承と地域資源を活用した地域振興と市民交流を支援する。

・自発的な地域活動の支援 ・岡崎市における市民交流の促進 ・地域資源及び人材の発掘

なお、ここでいう「自然環境」とは、天然の自然だけでなく、田畑や里山など人の手が加わった自然環境も含んでいる。





風が呼んでる。自然が呼んでる。
行こう、水とみどりの森の駅へ!

水とみどりの森の駅案内マップ

森の駅



森の総合駅



森の駅



森の駅
育成地区

森のポケット

「森のポケット」ものでいてみません。
そこには水とみどりの宝物があります。

「森の駅」周辺にある動物や自然や文化
のある場所が「森のポケット」。森の駅に乗
たら、ぜひ訪れてみてください。おなたの
お気に入りの場所になるかもしれません。



水のポケット



樹のポケット



緑のポケット



森の小径



里のポケット



星をひらば
歴史が

1 おかざき自然体験の森



2 茅葺の里



3 おおだの森

※イメージ図



4 くらがり渓谷



図 5-28 「水とみどりの森の駅整備事業」における「森の駅」の分布

5.7 水環境の現状のまとめ

ここまでで示された岡崎の水環境の現状の一覧を以下に示します。

表 5-15 水環境の現状のまとめ

基本方針	水環境の現状
水 量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去10年では主な河川の流量はほぼ横ばい傾向。しかし、将来は流量の減少が予測される。 ・ 岡崎の水を生み出している森林・農地について、市西部では農地、市東部では森林の減少が顕著。そのため、水源涵養機能の向上の対策が必要。
水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道整備の進捗等によって乙川本川で河川水質は改善傾向。 ・ 乙川と比べると、下水道未整備地域、市西部の市街地を流れる河川、南西部の市街化調整区域を流れる河川で水質が良好でない。 ・ 鹿乗川以外は環境基準達成(H16)しており、鹿乗川の環境基準は早期に達成すべき。 ・ 乙川流域では、水質汚濁の原因の70%超が生活系であり、生活排水対策が必要。 ・ 将来は水質が悪化し、乙川本川でも環境基準を達成できなくなることが予測されている。 ・ 地下水質は、主に岡崎市の市街化調整区域で窒素、市街地でテトラクロロエチレン等が環境基準を超過している。 ・ 油流出などの水質事故が毎年発生している。
災 害 (洪水・濁水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が出ている。被害の軽減に向けては、沿川農地が持つ貯水機能、保水機能を活かすため、遊休農地、耕作放棄地の防止などの農地の有効活用や、雨水の貯留浸透や再利用の対策が必要 ・ 最大の災害は昭和46年8月の台風(床上浸水1,274棟)。(平成12年東海豪雨時(床上浸水414棟)) ・ 市西部の市街地、乙川沿岸、及び男川沿岸は、浸水被害の発生の危険性が高い。 ・ 乙川圏域河川整備計画において、下流側は河道改修、遊水地整備による災害防止策が検討されている(現在検討中)。 ・ 農作物への干害が周期的に発生している。
水辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡崎市内は、河川・ため池・水田・湿地などの水辺環境が豊富である。今後も、親水性の向上を図っていくことが必要。 ・ ため池などでは、外来種(ブラックバスやブルーギルなど)が特に繁殖しており、在来種が減少している。そのため、「ため池まつり」を行い、外来種の駆除や水に親しむ機会をつくり、ため池の活用の対策が必要。 ・ 河川や水路でも在来種が減少している。そのため、生物にやさしい川づくりが必要。 ・ 市街地を中心に河川環境整備や拠点整備が推進されている。 ・ 農業用水幹線のパイプライン化により用水路上部を利用し、遊歩道の設置、せせらぎ水路の復活を行っている。
水との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内のそれぞれの川において、市民や市民団体による河川敷や堤防清掃、草刈等の環境保全活動が実施されている。今後も、市民・ボランティアとの連携の強化を図っていくことが必要。 ・ 水辺を活用したイベント等行われており、既存の事業を継続するとともに水環境資源を活用した新たな行事を検討していくことが必要。 ・ 水に関する史跡や観光資源があり、史跡や既存の観光資源を保存するとともに新たな観光資源の開発を検討していくことが大切。 ・ 水環境の改善に関し、ゲンジボタルの飼育・保護活動などに取り組んでいる学校がある。今後は、これらの活動の拡大を図り、乙川のホタルライン化などを図ることが望まれる。 ・ 森の駅整備事業により自然環境の継承、保全育成が期待できる。

注) 太字は今後重点的な対策が必要な項目